



2015年第3回定例会号  
発行：渋谷区議会公明党  
渋谷区東 1-13-1-210

# 近藤じゅん子 励ます会 通

## 地域包括ケアシステム、 福祉等を伺う



### 質問 地域包括ケアシステムについて

① 超高齢社会を取り巻く問題・課題は、複雑化しています。悪質な詐欺被害は後を絶たず、認知症による徘徊での行方不明や不慮の事故も、もはや他人事ではありません。重度化した親の介護の為に仕事を辞めざるを得ない子。また老々介護・認知介護。孤独な介護の果てに虐待やネグレクトを引き起こす事も残念ながら増えています。私がお相談を受けた方も認知症の父親に対し自分の感情がコントロール出来なくなりそうと怖いと吐露されていました。渋谷区では、私も公明党の強い提案により、他の自治体に先駆けて年認知症ケア推進担当課が設置されました。認知症を含め多岐にわたる相談等包括的に行うために、いよいよ全庁横断的な整備及び政策立案を推進するため地域包括ケア推進組織の新設が必要だと考えます。

② 現在、施設入所待機者の状況から施設拡充は必要不可欠な課題ありますが、医療と介護・生活支援などの体制を整えれば自宅で暮らし続ける事が出来ます。在宅で人生の最終章・最期を迎えるに当たり、ご本人・ご家族に寄り添った包括的な医療・看護は大きな役割を持つことから訪問診療、訪問看護

の理解を広げるために、啓発運動、勉強会と人材確保を進めるべきだと考えます。

③ 認知症により日常生活に支障のある親などを在宅で介護する方に、見守りや話し相手などの支援を行うヘルパーサービスを利用し、介護の負担時間を具体的に軽減させるために「認知症介護者リフレッシュサービス(仮称)」を区独自に導入してはどうかと考えます。

④ 二十八年度から実施予定の認知症徘徊高齢者の行方不明対応について。山形県酒田市ではITを活用した実証実験が始まりました。渋谷区として具体的な機器導入やネットワーク化の内容を教えてください。

### 答弁 長谷部区长

① 高齢者サービス課を中心として関連担当所管等と連絡を密にし、全庁的かつ横断的な連携体制で取り組む。

### 答弁 福祉部長

② 介護者リフレッシュ交流会等の場を有効活用し啓発に努め、ケアマネージャーに対しての研修会を充実させ理解を深めていく。就労支援センターで求職者とのコーディネートやセミナー開催等の就労支援を行う。

③ 区独自のサービスについては二十八年度四月実施予定の介護予防・日常生活支援総合事業に合わせ、見直しを行う中で検討。

④ 本人所持ツールは様々なタイプのもを二十八年度実施に向け検討中。各地域に配置された見守りサポート協力員を中心に、認知症サポーター養成講座を受講したボランティアや警察、鉄道、金融機関、商店主、町会等が連携する認知症サポーターネットワークの構築を図る。

### 質問 福祉について

① 耳が不自由なために会話が困難な高齢者の方に、より豊かな晩年をサポートする意味で、医師の診断から認める補聴器購入助成の検討を願います。

② 毎年、全国で三万人に及ぶ自殺者のうち約六十%の人がうつ病を患っていたと考えられています。うつ病の早期発見・受診への入口として、気軽に質問に答えてチェックできる「こころの体温計」を区ホームページに公開してはいかがでしょうか。

③ 現在六歳以上が対象の障害児おむつ助成の年齢引下げの検討をお願いします。

